

実践のまとめ（第6学年 社会科）

見附市立葛巻小学校 教諭 小野塚 智大

1 研究テーマ

学級経営を意識した授業展開は、児童が主体的に学ぶ態度の育成に寄与するか

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領では、学級経営は、「学びに向かう集団づくりの基盤となり、各教科等で『主体的・対話的で深い学び』を実現する授業改善を行う上では、こうした基盤があることは欠かせないものである。」と指摘している。赤坂(2019)は、「教師の指導力を研究してきた立場や教科指導を研究してきた立場からも学級経営の重要性が指摘されている。」と述べている。さらに、赤坂(2024)は、インタビューの中で、成功の循環の図を取り上げ、関係の質（対話や交流）、思考の質（多様な視点からの気付き）、行動の質（自発的な行動や協働）、結果の質、関係の質…の順にスパイラル的に良くなることから、関係の質の高まりを生むためにも学級経営が重要であるとしている。

私の担任する学級では39人の児童が在籍し、4・5月ごろは、関係の希薄さから相手の考えを聞いて終わりにする姿が多く、交流しても考えが深まりにくい実感があつた。

特に、社会科の歴史分野の学習では、歴史人物の名前が読めない、難解な用語が多いことから、一層主体的に学習できない児童がいるという実感があつた。

以上のことから、学級経営を意識し、友達と関わり、つながりながら学習を進めることが、社会科の学びにくさを乗り越え、主体的に学ぼうとする態度につながるのではないかと考えた。

(2) 研究テーマに迫るために

① 毎時間、授業の導入で歴史カルタに取り組みさせる。

1対1で歴史人物のカルタで勝負し、勝ち上がり方式で多くの児童とかわる機会を設け、関係の質の高まりを目指す。勝ち負けを受け入れることや盛り上がること、友達の良さに触れる機会になることなどから、学級の間人関係をよくすることにつながり、意見交流の際の質の向上につながると考えられる。また、繰り返し聞くことで歴史人物の名前と業績を自然と覚え、歴史の学習へのハードルを下げることもつながるだろう。

② 振り返りに友達の名前を記述させる。

自分の考えが変わったこと、あるいは強化されたことを振り返る際に友達の名前を具体的に記述することで、友達との関わりの中で学び、考えを深めている実感を生ませたい。また、名前の書かれた振り返りを共有することで、誰かの学習に貢献できていることを伝え、自己肯定感の高まりを目指したい。そして、それが次の学びの際の意欲や主体性につながることを期待する。

③ 対話しながら学ぶ課題を設定する。

エキスパート学習で各々が学んだことや考えたことを交流することで学びを深める知識構成型ジグソー法を取り入れる。同じテーマで学んだ友達同士や、違うテーマで学んだ友達との交流を通して学びを深められるようにする。

(3) 研究テーマに関わる評価

質的な評価としては、単元末の振り返りの記述から、友達との関わりの中で学びを深めている姿や学習内容について主体的に迫っている様子を見取る。アンケートにより社会科の得意な子（A児）、苦手な子（B児）それぞれに抽出児を設定し、学習状況や授業への取り組みの変化を見取る。量的な評価としては、単元実施前後で社会科の学習についての意識調査をし、数値化する。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

明治の新しい国づくり（小学社会6 教育出版）

(2) 単元の目標

明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことについて理解するとともに、近代化の特色、出来事や人物の関連や意味を多面的に考え、明治時代の近代化について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養う。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 資料で調べ、開国や明治維新、文明開化による社会の変化などを理解している。 調べたことをノートやスライドなどにまとめ、日本が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 開国や明治維新、文明開化などこの頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 明治時代の近代化について、自分なりの視点や考えをもって学習に臨んだり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全6時間、本時3／6時間）

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (1)	明治時代になり、何が新しくなったのか？		
	<ul style="list-style-type: none"> ペリー艦隊の来航によって鎖国が終わるとともに、外国と不平等な条約を結び、貿易が始まったこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 高輪の明治時代と江戸時代の浮世絵の違いを読み取り、時代の変化を知る。 ペリー来航から、開国、そして、不平等な条約を結んだことを知る。 	【思判表】 明治時代と江戸時代の浮世絵を比較し、疑問をもち、新しい世の中に変わったことを考え、表現している。 (発) (ノ)
2 (3) 本時	新時代を作り上げた、最高のリーダーは誰か？		
	<ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府が倒れ、武士の政治が終わったこと。 当時のリーダーたちの偉業がそれぞれ関わり合って明治維新が成し遂げられたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 新時代を作った最高のリーダーは誰か立場を決めて調べたり、考えたりする。(エキスパート活動) 違う立場の仲間との交流(ジグソー活動)、最終的な全体交流(クロストーク)をしながら考える。 	【知技】 明治維新の流れを理解している。 (発) (ノ) 【思判表】 最高のリーダーは誰かについて考え、表現している。(発) (ノ) 【態】 友達との交流を通し、主体的に追究しようとしている。(発) (行) (ノ)
3 (2)	新しい日本(明治政府)はどんな国を目指したのか？		
	<ul style="list-style-type: none"> 明治政府が天皇を中心とした政治を進め、改革して社会を変えていったこと。 政府が、国を豊かにすることで、欧米諸国に追いつこうとしたこと。 西洋風の文化や考え方を積極的に取り入れ、人々の暮らしや意識、社会の制度が変化したこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史クイズやNHK for schoolの動画で時代の変化や流れを知る。 政治、経済、暮らしの中からテーマを選び、ノート作りをする。 単元全体について振り返る。 	【知技】 明治維新や文明開化による影響を理解している。(発) (ノ) 【思判表】 明治維新や文明開化による社会の変化について考え、表現している。(発) (ノ) 【態】 友達との交流を通し、主体的に追究しようとしている。(発) (行) (ノ)

4 単元と児童

(1) 単元について

本単元では、諸外国からの影響を受け、政治、経済、人々の暮らしが大きく変わったことについて考えていく。そこから、世の中に大きな変化が起こるときにの要因や、その激動の時代を生きる人々の様相について学ぶことができる。これは、現代の社会の動きにも大いに通ずるところがあるということを経験には実感してもらいたい。また、坂本龍馬をはじめ心打たれるストーリーをもつ人物が多く登場する時代でもあり、児童にとって興味をもって学ぶことのできる単元であると考えられる。

多くのリーダーたちの考え、生き方が時代の変化にどう関わっていったかを考えることで、明治維新や近代化について多面的・多角的に捉えようしたり、粘り強く考えることで考えをより深めたりすることができるだろう。

(2) 児童の実態

本学級は、男子 19 人、女子 20 人、計 39 人である。全教科でのペアトーク、道徳や国語を中心に全員発表や討論の機会を多く設定し、コミュニケーションをする中で学びを深めることを日常的にできるように指導してきた。その結果、自然に対話をしながら学びを深めることができるようになりつつある。社会科の授業では、授業の導入で毎回歴史カルタを実施し、友達同士のつながりを生むと同時に、歴史人物への心理的距離を縮めるようにしてきた。休み時間にも歴史カルタに熱中する児童、自主学習で歴史人物について調べまとめる児童も複数見られ、学習中には知っている人物の登場を心待ちにする様子もあり、歴史学習に親しんでいる様子が見られる。

A児は、社会科が得意という認識（アンケートより）で、普段からすべての学習、学校生活の中で積極性を発揮しており、友達も多い児童である。歴史カルタにも熱心に取り組んでいる。ただ、視野が狭くなりがちであるので、友達と考えを交流することで考えを広げ深める姿を期待したい。

B児は、社会科が苦手という認識（アンケートより）で、学習に対しての積極性は高くない。4、5月には、歴史カルタには取り組んではいるが積極的ではない姿が見られた。友達との関係は良好であることから、友達とのつながりの中で、カルタも楽しみ、社会科の学習への積極性を高めてほしい。

5 本時の展開（令和6年10月21日実施）

(1) ねらい

「新時代を作り出した、最高のリーダーは誰か？」について意見交流することを通して、様々な見方や考えがあることに気づき、当時のリーダーたちの偉業がそれぞれ関わり合って明治維新が成し遂げられたことを理解し、自分の考えを深めることができる。

(2) 展開の構想

前時に「新時代を作り出した、最高のリーダーは誰か？」について、立場、考え方、人生、成し遂げたことなどを視点に調べたり考えたりしたことを、立場の違う友達と交流（ジグソー活動）した後、再度もとのメンバーとの交流（クロストーク）を経て、自分の考えを練り直す。学習の最後には、友達の名前を入れた振り返りを行うことで、友達との関わりの中で学びを深めたことを実感させることができると考える。友達と関わりながら学ぶ一連の流れの中で、社会科の学習に主体的に取り組み、考えを深める姿を期待する。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	T：教師の働き掛け C：予想される児童（生徒）の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
10	・歴史カルタを する。	C：盛り上がる。社会の学習のモードになる。	
5	・本時のねらいと 学習活動の確認を する。	T：「新時代を作り出した、最高のリーダーは 誰か？」について考えを深めます。 T：学習の流れは、この通りです。 ・エキスパートチームで伝える内容を確認 します。 ・違う考えの人と交流します。 ・前回の同じ考えのメンバーで再度意見交 流します。 ・もう一度自分の考えを書きます。	○本時の学習の 流れを視覚化し て掲示する。 ○グループのメ ンバーや座席が すぐわかるよ うに示す。
5	・同じ人を選んだ 友達と伝える内容 を確認する。（エ キスパート活動）	T：次のジグソー活動では、人物の紹介だけ でなく、なぜ最高のリーダーと言えるのか理由 を伝えることが大切です。準備をしましょ う。 C：坂本龍馬が薩長同盟を作る手助けをしたこ とは絶対に外せないよね。 C：銃を長州藩に渡していたことも大切だよ ね。 C：西郷隆盛が勝海舟に認められていたことも 大切だよね。	○前時までの準 備の状況から適 切に助言し、自 信をもたせる。
8	・違う人を選んだ 友達と意見交流す る。（ジグソー活 動）	T：意見交流を始めましょう。次のクレスト ークで説明できるようにメモをしましょう。 C：坂本龍馬は、勝海舟に学び、薩長同盟を作 った人物です。坂本龍馬がいなければ、薩長 同盟はできず、江戸幕府を倒すことができな かったに違いありません。また、日本で初め て新婚旅行に行った家族思いな一面もありま す。こんなに家族思いで人をつなげる力のある 坂本龍馬が最高のリーダーだと思います。 C：勝海舟は幕府の役人で成臨丸の艦長だった 人物です。頭の回転が早く、先を見通す力が あり、坂本龍馬や西郷隆盛に非常に尊敬され ました。また、西郷隆盛と話し合い、江戸城 を無血開城することに成功しました。お陰で 江戸の町や人は傷つけられる事なく、新しい 時代をスムーズに迎えることができました。 だから、勝海舟が最高のリーダーだと思いま す。 C：西郷隆盛が最高のリーダーだと思います。 西郷隆盛は薩摩藩の武士でしたが、明治天皇 にも気に入られる人柄でした。そして、倒幕 に向けて強い意志を持ち、人々を引っ張って いました。そんな西郷隆盛だったからこそ勝 海舟も江戸城の無血開城を受け入れてくれた と思います。	□【態】最高の リーダーについ て、根拠をもっ て説明しようと しているか。 (発) ○モロしやすい ように視点を示 したワークシー トを用意する。
6	・聞いたことやジ グソー活動で考え	T：自分の班に戻り、他のグループがどう考え ていたのか伝え合います。	□【態】最高の リーダーについ

	たことを交流（クロストーク）する。	C:西郷隆盛と勝海舟がいなければ無血開城がなく、新しい時代になったとしても、江戸の人や町が傷ついて、外国に襲われていたらしいよ。 C:ということは、坂本龍馬だけではだめだったのかな。	て、聞いてきたことを説明しようとしているか。 (発)
9	・課題について考え（捉え）直す。	T:「新時代を作り出した、最高のリーダーは誰か？」について話し合って考えました。今考えていることを話してください。 T:友達の名前を必ず入れて、「新時代を作り出した、最高のリーダーは誰か？」について、今の自分の考えを書きましょう。	◇一人ではなく、3人が関わり合っていたことに気づいている児童に発言させる。 □【思判表】最高のリーダーについて、友達の考えを受けて自分の考えを深めた記述をすることができているか。(ノ)

(4) 評価

- ・当時のリーダーたちの偉業がそれぞれ関わり合って明治維新が成し遂げられたことを理解している。(知識・理解)
- ・学習問題について意見交流をすることを通して様々な見方や考えがあることに気づき、自分の考えを深めることができる。(思考・判断・表現)
- ・明治維新にかかわったリーダーについて自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いて考えを練り直したりしようとするができる。(主体的に学習に取り組む態度)

6 実践を振り返って

(1) 歴史カルタについて

毎時間の冒頭 10 分で繰り返し実施してきた。1ヶ月を1シーズンとし、四皇（勝ち上がったっていった上位4人）を目指し、意欲的に取り組む児童が多かった。アンケートで歴史カルタを好きだと答えた児童は92%を超えた。中には、休み時間にも遊びとして、また練習として取り組む様子も見られた。カルタを通し、歴史人物に何度も触れることで、名前や重要語句が記憶に残り、実際の授業にその人物が登場すると「お！ついに勝海舟だ！」などと興味をもってその人物に関して学習する様子が見られた。また、テストでもカルタに登場する人物に関する問題は難なく解いていた。児童アンケートの結果では、約8割が「歴史カルタが社会科の学習を好きになるきっかけになった」と回答している(図1)。また、約7割

歴史カルタは社会の学習を好きになるきっかけになりましたか。

38件の回答

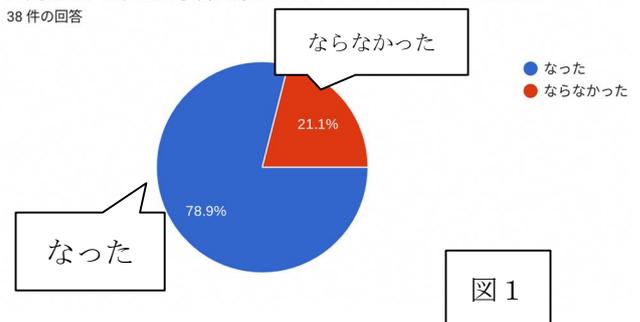


図1

歴史カルタをやることで、友達と仲良くなったと思いますか。

38件の回答

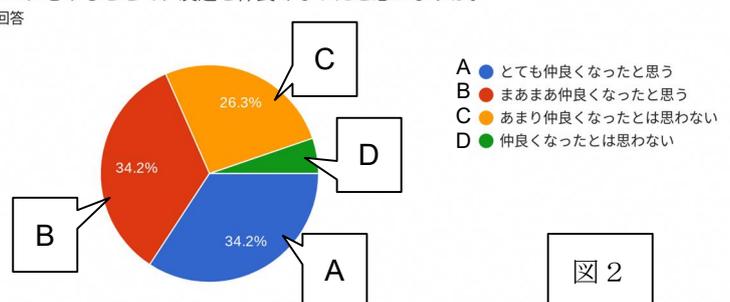


図2

が「歴史カルタをやることで、友達と仲良くなったと思う」と回答している(図2)。学級経営の一環として、一人ひとりの良さを児童が書き、それを集約して学級だよりで伝えている。その中にも、「歴史カルタが強くてすごい。憧れる。記憶力に驚く。対戦していて楽しい。」と歴史カルタをきっかけに友達の良さに気付いた記述が多く見られた。

A児は、歴史カルタを始めた当初、漢字が読めないこと、覚えられないことから苦手意識をもっていたが、ある時、対戦した相手がすごい速さで取る姿を目の当たりにし、「自分もそうなりたい、いつかあの友達に勝ちたい」と休み時間にも練習するようになった。今では最も強い集団に所属仲間入りを果たし、毎時間のカルタを楽しんでいる。アンケートでは、「歴史に強くなれてすごくいいと思っている。どんどん強い人が変わるからずっと最強席にいるのは難しいからそういうところが楽しいです。なかなか勝てない人に勝つことが私の目標になって試合がさらに楽しみになりました。だから達成したときは嬉しかったです。」と回答していた。

B児は、つまらなそうに歴史カルタに取り組んでいたが、回数を重ねるごとに仲の良い友達や、やる気を引き出してくれる友達、同じくらいの力量の友達と当たったときには楽しめるようになっていった。アンケートでも、歴史カルタはまあまあ好きで、歴史カルタが仲良くなるきっかけになったと回答していた。B児は、仲の良い友達がいたことがきっかけで、学習への意欲を引き出してもらっていた様子が見られた。

以上のことから、歴史カルタに継続して取り組むことは、社会科の学習への意欲づけとしても、学級の間人関係を良い方向に向かわせる面からも効果があったと言える。一方で、負けが続いたり、そもそも友達と関わるのが苦手だったりする児童数名は歴史カルタになかなか意欲的に取り組むことができなかった。

(2) 授業の実際

①エキスパート学習

単元の導入では、ペリー来航をきっかけに高輪の様子が明治時代に入り大きく変化したことを確認した。各時代の変化を起こしてきたリーダーが存在し、それぞれの時代で活躍するリーダーの資質が変化してきたことに触れた。そして、この明治維新の時代の学習では、「新時代を作り出した、最高のリーダーは誰か？」について考え、この時代について理解を深めることを確認した。

第2次では、まず、勝海舟、坂本龍馬、西郷隆盛、木戸孝允について一通り学級全体で概要を捉えた。次に、4人の中から自分が最高だと思ったリーダーについて個人で調べたり、考えたりする時間を2時間取った。薩長同盟を理由に坂本龍馬を選ぶ児童が多く、ついで西郷隆盛、勝海舟という順であった。この時点では、教科書や資料集を中心に調べ、偉人の業績だけに目を向けて判断している児童が多く、人間性や性格にまでは考えが及ばなかった。

②ジグソー活動

本時では、友達の考えに触れ、考えを深めることを目的にジグソー活動を取り入れた。

まず、同じ偉人を選んだ者同士(エキスパートチーム)で「その人物が最高のリーダーと言える理由」について意見を交流した。理由を明確にできていない児童は、ヒントをもらうことができ、また、話すことで思考が整理されている様子も見られた。ただ、多くの児童が教科書や資料集からの情報しか持っておらず、目新しさや驚きのような感動が少なかった。

次に、違う考えの者が集まった4人班(ジグソー班)で意見交流し、「新時代を作り出した、最高のリーダーは誰か？」について班で答えを出すことを目指した。それぞれが自信をもって自分の考えを発表することができた班では話合いが盛り上がり、新たな視点が自分の考えに加えられたり、考えを修正するきっかけとなったりしていた。一方で、偉人を選んだ理由を明確にできていない児童が複数いた班では話合いが停滞し、とりあえず答えを出すという方向で学習が進んでしまった。

最後に、班で選んだ偉人とその理由を交流した。この段階では、人物の業績だけでなく、そこから見えてくる性格や人間性にも言及する班が複数あり、考えの深まりが見て取れた。また、「それぞれの人の業績を5だとしします。みんな5だから決められない。」と一人のリーダーではなく、優秀なリーダーが成し遂げたことがつながり、明治維新がなされたことに気付いた班もあった。これらの考えが共有された後、再度個人で課題についての考えを記述した。考える際にきっかけになった児童の名前を書いて振り返るよう指示をした。ジグソー活動で聞いたそれぞれの偉人の良さについての言及は多かったが、それを発信した児童名は少なく、課題には正対していたものの、誰のどの発言で考えが深まったのかまでは意識が向いていなかった。

(3) 研究テーマについて

①児童アンケートから

「友達と話し合いながら、誰が優秀なリーダーだったか考える学習で、考えを深める事ができましたか。」という質問では、84%が肯定的な評価であった(図3)。「友達と話し合いながら、誰が優秀なリーダーだったか考える学習は、自分から学ぼう、友達に話そうという気持ちになりましたか。」という質問では73%が肯定的な評価をした(図4)。ジグソー法に基づく学習が、考えを深めることにつながり、主体性の面でも効果をもたらしていたことが分かった。

友達と話し合いながら、誰が優秀なリーダーだった...考える学習で、考えを深める事ができましたか。
38件の回答

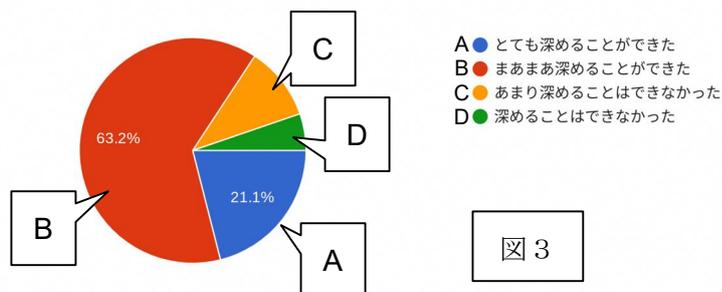


図3

友達と話し合いながら、誰が優秀なリーダーだった...友達に話そう」という気持ちになりましたか。
38件の回答

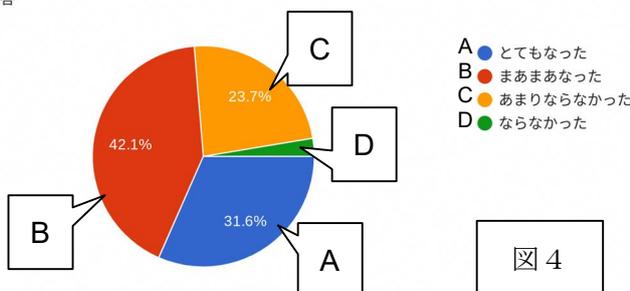


図4

②ワークシートの記述から

児童の半数以上が、ワークシートに、「友達の考えを聞いて～」と記述しており、友達との交流が考えを深めることにつながっていた。A児のワークシート(図5)では、自分で考えた際には木戸孝允の業績に注目していたが、友達との交流を経て、それぞれの偉人の性格や人間性にも目を向けて、課題についての答えを考えられるようになっていた。B児のワークシート(図6)では、友達の話聞き、他の偉人の良さにも気づき、4人の偉人それぞれにリーダーらしさがあることに思い至っていた。様々な立場からの考えを共有することで、明治維新という1つの事象への理解が深まったことが見て取れる。

勝海舟

坂本龍馬

西郷隆盛

木戸孝允

みんなで考える前の自分の考え

私には、木戸孝允さんが最高
のリーダーだと思います。なぜかという五
カ条のゴザイものには、坂本さんの思いも入
って、いろいろな考えをまとめる最高
のリーダーだと思います。それに、国民を平等にする
ために、刀を片手残らずもてい入るを減らした
りしたから。

みんなで考えた後の考え

江戸の明治のリーダには、偉い人
を一人だけじゃないかなと思いました。坂本龍馬は、初
の新日本旅行に答えてる覚悟で、坂本さんがいる
ため、これに、夫ができてくれたと思います。西郷さんは、
上下関係をやめて、おれたこと、のさばり強い
性格で、どうやって人をたたくともおきかかして
いて、なりました。いまは勝海舟さんが、明治維新の
で、朝や2時になりました。

図5 A児のワークシート

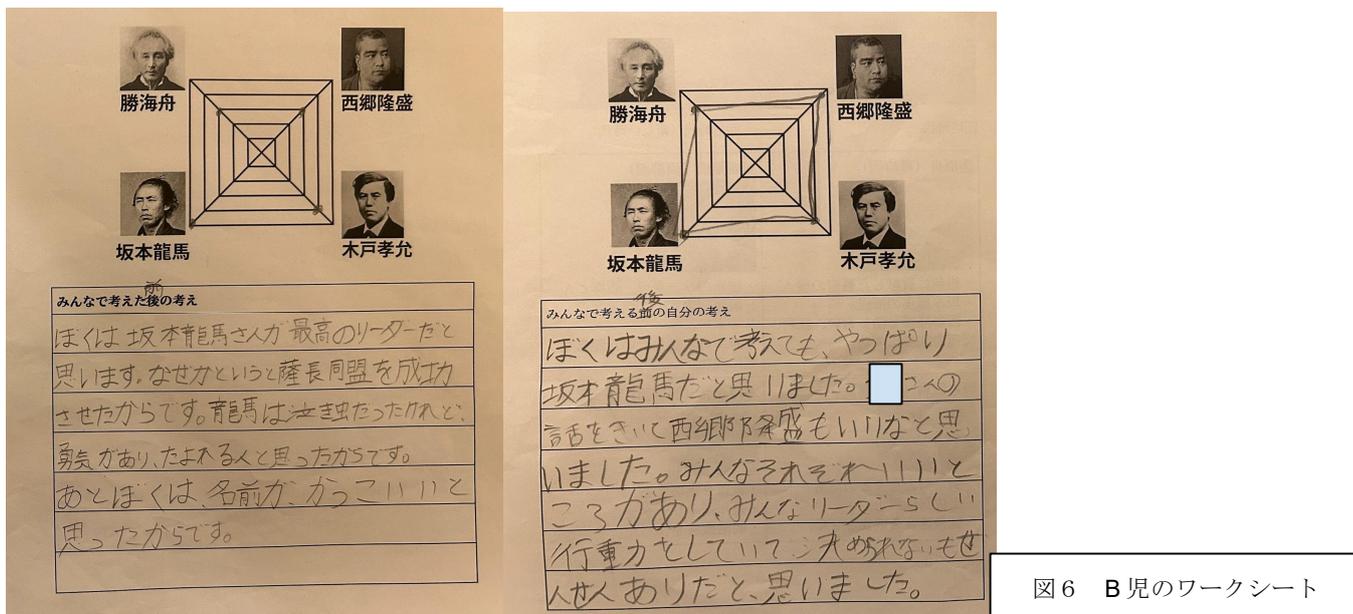


図6 B児のワークシート

(4) 成果と今後の課題

テーマに迫るために3つの手立てを講じた。歴史カルタを継続的に実施し、様々な友達と関わることが一助となって良好な人間関係が作られたことにより、学習への主体性が向上したり、ジグソー活動での交流が円滑になり、考えを深めたりすることにつながっていたと考えられる。アンケートの自由記述には、「とても楽しいし、歴史カルタをやることで社会の勉強を頑張れる。あと、まだ習っていない歴史の偉人がわかる。」のような記述が複数あった。また、歴史カルタを通して身に付けた知識でテストを簡単に解くことができ、問題に向き合うことを楽しんでいる様子も見られた。歴史カルタが社会科の学習のハードルを下げ、主体性を育むことにつながっていたと考えられる。

一方で、歴史カルタに意欲的になれない児童への対応に課題が残った。達成感や自分の成長を感じられるような手立てが必要である。読み札を自分で考えさせたり、1対1の勝ち上がりだけでなくもっと大人数で対戦したりするなど工夫の余地がある。目の前の児童に合わせ、より良いものを追究していきたい。ジグソー法では、教科書や資料集を中心に調べさせた。歴史の学習では、偉人の意外な一面や経歴、自分との共通点などを知ったり、自分しか知らない情報を持っていたりするときに考えを表出させたいことが多い。そういった児童の気持ちに寄り添い、より自由度の高い調べ学習を展開することも考えていきたい。また、友達の発言や考えに触れて自分の考えが変容したことを具体的に記述している振り返りを紹介し、関わりの中で学ぶことを価値づけいく。名前の挙がった児童は自己有用感が高まり、さらに主体的に学び、関わろうとするだろう。そのために、誰の発言によって影響を受けたのかを自覚しやすいようにワークシートを工夫していきたい。

参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別活動編』2018

赤坂真二『GIGA スクール構想×学級経営』2024

<https://www.mext.go.jp/studxstyle/special/57.html>

赤坂真二『日本学級経営学会誌 2019 第1巻-1-学級経営の意味と課題』2019

本間工太郎『実践のまとめ(第6学年社会科)』2022

山崎 克洋 『続ければ本物になる 帯指導の教科書』2024 東洋館出版社